

# 多死社会における技術＝文化システムのリデザイン

このテーマのキーワード	多死社会, 葬祭文化, 技術と文化, 人文知
関連するSDGs開発目標	       

## 研究内容（社会背景・目的, 概要, 期待される効果）

### （社会背景・目的）

- 従来の葬式や墓の維持は、極めて困難。
- 一方、プロフェッショナルとしての葬祭業者に対する注目の高まり。『AIに取って代わられない仕事100こども手に職図鑑』（誠文堂新光社、2020年）には「納棺師」が取り上げられた。
- 葬祭文化そのものが大きく様変わりしつつある現在、従来と将来との円滑な接続が要請されつつある。

### （概要）

- 葬祭文化に代表される生活文化へ、新たな技術が導入されると、従来の技術＝文化システムは軋む。
- システムの軋みは、個人的な違和感として表出される。いらすとやが示す「オンライン墓参り」は好例。
- ここで生じる微妙な違和感の正体について、人文知を参照しつつ分析・考察した上で、再提案を試みる。

### （期待される効果）

- 葬祭文化の再構築への貢献。
- 福祉領域を含め生活文化全般への応用。



## 想定される適用分野・用途・業界

- 葬祭業および関連業界
- 医療・福祉分野
- 公共政策

## 産業界へのアピールポイント

- 産業界のシーズを、葬祭文化のニーズやウォンツといかにマッチングするか、まずはIT領域で取り組み始めています。

教養教育センター 土居 浩 教授

このテーマに関するお問合せ ものづくり研究情報センター  
E-mail : mric@iot.ac.jp TEL : 048-564-3880